

▶まだ歩道も無く、車より人通りが多い
(昭和31年冬。8月には大火で商店街が全焼)



▲昭和40年ごろの大町中央通り(今のおおまちハチ公通り)

▶昭和20年代の大町中央通りの様子



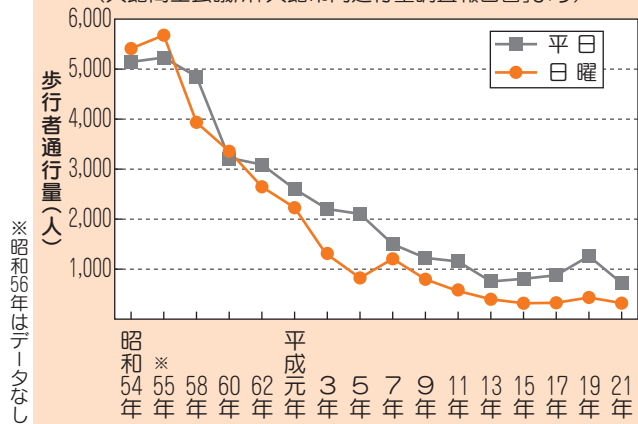
人通りも昭和50年代後半から徐々に減り(グラフ参照)、中核であった百貨店の倒産(平成13年)とも重なり、大町商店街は大きく様変わりしてしまいました。

「活性化に向けて取り組む皆さん」

商店街を一回りしてみました。人通りもまばらで、商店には立ち寄り通り抜けるかたが多いように感じられました。しかし、まちなかには活気あふれる場所が増えてきています。平成18年に旧百貨店の正面玄関跡にオープンした「大町ふれあい広場」には、野菜を販売するかたの威勢の良い声が響き渡っています。さらに今年10月には、通りのほぼ中心に位置するハチ公プラザに、新鮮な野菜や加工品を取り扱う「NOSH HACHIO HACHI」がオープンし、たくさんさんの買い物客が訪れるようになりました。

大町歩行者通行量の推移

(大館商工会議所「大館市内通行量調査報告書」より)



※昭和56年はデータなし

ハチ公プラザには、ゆつくりとくつろぐことが出来る休憩スペースが設けられています。また、ガス台を備えた体験コーナーでは、料理講習やイベントの際の煮炊きに利用することが出来ます。周辺には、空き店舗を活用しオープンした「秋田県北部男女共同参画センター」や「秋田県北NPO支援センター」「大館曲げわっぱ体験工房」があり、買い物だけでなく、学習や体験が出来るまちなかになっています。

今年、慣れ親しんだ大町中央通りの名称は「おおまちハチ公通り」に変わりました。通りでは、以前に比べイベントなどが多くなったように感じます。そこには活気を呼び起こそうと頑張っている人、まちの再生を願う人たちの姿がありました。日々取り組みを進める商店街の方々と街の声を聞いてみました。

